

# 平成 27 年度 特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：平成 27 年 9 月 1 日から平成 28 年 8 月 31 日)

## ■日本レスキュー協会全体の動き

- ・組織改革
- ・組織

## ■事業の成果

### 【災害救助犬事業】

- ・熊本地震対応
- ・他機関との連携および訓練
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業

### 【動物福祉事業】

- ・犬・猫の保護・引き取り及び一般譲渡に関する事業
- ・熊本地震での活動
- ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・犬のしつけ方教室の開催

### 【セラピードッグ事業】

- ・被災地慰問活動（東日本大震災）
- ・セラピードッグ派遣事業
- ・セラピードッグ候補および従事者の育成

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織改革

新理事長 : 吉永 和正 (前理事)

新副理事長 : 伊藤 裕成 (前理事長)

新理事 : 安随 尚之

新監事 : 鵜飼 卓

新事務局長 : 岡 武

新職員 : 2名 (動物福祉事業)

## ■事業の成果

### 【災害救助犬事業】

平成27年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

#### ・熊本地震対応

本年度は4月14日に発生した「熊本地震」を受けて、発災から3時間後に協会を出発し、隊員3名と救助犬4頭を派遣しました。15日の朝、益城町役場に到着した私たちは、他の救助犬団体と連携して捜索活動にあたりました。特に日頃から全日本救助犬団体協議会で顔を合わせるNPO法人九州救助犬協会と連携が出来たことによって、情報の集約等も円滑になったことにより迅速に活動することが出来ました。また、NPO法人ジャパン・タスク・フォースの隊員2名とも連絡を取り、16日に合流し共に活動を行いました。公的機関との調整や南阿蘇村土砂災害での安全管理をして頂き、より円滑に安全に捜索活動を行えました。後方支援として全国から多くの救助犬が集まったこともあり、17日の夜捜索活動を終了しました。3日間の活動では、犬が反応を示した箇所はあるものの、残念ながら行方不明者の発見には至りませんでした。今後も震災に備えて、ジャパン・タスク・フォースをはじめ、他の救助犬団体と円滑な連携が取れるように励んでいきたいと思っております。

#### ・他機関との連携および訓練

本年度も現場対応のための連携および今後の国内の救助犬の在り方を協議することを目的として全日本救助犬団体協議会参加の北海道ボランティアドッグの会、埼玉県所在のNPO法人日本捜索救助犬協会、熊本県所在のNPO法人九州救助犬協会、沖縄県所在の沖縄災害救助犬協会と引き続き協議および合同訓練を継続しています。また全日本救助犬団体協議会に参加していない救助犬団体とも積極的に交流を深め有事に備えています。またこの協議会事務局を担うNPO埼玉ネットは有事の際の情報収集、情報拡散(支援のお願い等)および資金調達を行っており、熊本地震出動資金も一部獲得していただいたこともあり、協会の活動が円滑に働くため今後も連携を強化していきます。

平時の訓練としては、協定を締結する47自治体との実践的な防災訓練の参加や自衛隊の「中部方面隊実動演習及び日米豪共同訓練」の一環として、陸上自衛隊36普通科連隊の皆さまが当協会に訓練を構え、合同訓練が実施されるなど、公的機関との連携の強化に努めました。また、ピース・ウィンズ・ジャパンや救犬ジャパン等、他の救助犬団体とも積極的に交流しました。

#### ・災害救助犬の標準化に向けた事業

本年度は、救助犬の標準化に向けての事業を本格的に始動しました。11月にはアメリカから講師を招き、消防等の公的機関や民間の救助犬団体を対象にセミナーを開催しました。また、救助犬の更なるレベルアップを図る為、5年に1度スイスで開催される「REDOG International Training Week」に参加しました。このような機会を通して海外の技術を学び、救助犬の標準化を目指し取り組んでいきたいと思っております。

## 【動物福祉事業】

平成 27 年度も主に動物の保護・愛護活動を実施しました。

### ・犬・猫の保護・引き取り及び一般譲渡に関する事業

年間に 15 頭の飼育困難や遺棄された犬と 2 匹のハムスターの引き取りや保護を行い、7 頭の犬と 1 頭の猫、2 匹のハムスターを一般家庭に譲渡することが出来ました。

引き取った犬 15 頭のうちの 1 頭は兵庫県動物愛護センターから団体譲渡（新たな飼い主を探す活動を行っている団体へ収容された犬及び猫の譲渡を行う）された犬です。

地元の兵庫県動物愛護センターから打診を受け、団体譲渡されたケースは初めてのことでした。

今後も殺処分ゼロを目指す上で、殺処分を行う施設（動物愛護・管理センターや保健所）を批判するのではなく、ともに殺処分を減らす為に協働していきます。

猫の保護依頼については、TNR 活動を（Trap/捕獲し、Neuter/不妊去勢手術を行い、Return/元の場所に戻す、その印として耳先をさくらの花びらのように V 字カットする）」を説明し依頼主に対応して頂くよう説明しています。

この TNR 活動は、実施することで繁殖を防止し「地域の猫」「さくらねこ」として一代限りの命を全うさせ「飼い主のいない猫」に関わる苦情や殺処分の減少に寄与します。

ただすべての猫（子猫）には施術を行えませんので、捕獲しボランティアに預かって頂いています。

### ・熊本地震での活動

熊本地震に際し、緊急支援活動を行いました。

熊本県熊本市に 4 回に渡り、被災した犬や猫達とそこご家族、被災した動物を支援する団体に対し緊急物資の提供を行い、また地震により大阪府八尾市へ避難した犬を熊本県熊本市に住む飼い主へ輸送する活動も行いました。

### ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

当事業部が保護した雌犬が出産した 5 頭の子犬から 1 頭のオスが平成 28 年 4 月からセラピードッグ事業へ転属しセラピードッグへの育成が行われています。

### ・犬のしつけ方教室の開催

問題行動を起こす犬に困る飼い主が問題行動を理由に遺棄や保健所に連れて行かれ、殺処分されます。

本年度も毎月 1 回、ホームセンターで飼い主に対し「しつけ方教室」を行い、未然にこの様な不幸な犬達を 1 頭でも少なくする活動を行っています。

## 【セラピードッグ事業】

平成 27 年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

### ・被災地慰問活動（東日本大震災）

東日本大震災の被災地で宮城県石巻市・牡鹿郡、岩手県釜石市の仮設住宅を訪問しました。釜石市では仮設住宅に宿泊させてもらう貴重な経験をさせていただきました。釜石市内だけでも被災者の仮設住宅での生活は今後 3 年ほどが見込まれていて、まだまだ復興とは程遠い印象を受けました。東日本大震災被災地からのニーズが有る限りこの支援を継続したいと考えています。

### ・セラピードッグ派遣事業

通常時の福祉施設などへの訪問活動の件数は、今期は約 131 回実施し、最近の実績では高齢者施設からの直接の訪問依頼に加え、大阪市の社会福祉協議会からの依頼で高齢者と子ども達との交流イベントに参加しました。幼稚園以外に子どもたちの自立支援センターや障がいある子どもたちのデイサービスなど、子どもの施設からの依頼も増えてきました。関東地区への訪問は平成 27 年 10 月と平成 28 年 6 月の 2 回実施しました。また大きな動きとして大阪府立母子保健総合医療センターから、入院する子どもたちの QOL の向上を目的としたセラピードッグの導入のお話がありますので、関係各専門家と連携を取りながらこの実現を目指します。来期も新規訪問施設を増やしつつ、その施設に定期的に訪問できるように努力してまいります。

### ・セラピードッグ候補および従事者の育成

企業からのセラピードッグの育成として助成金を獲得できましたので、新たに 2 頭のセラピードッグ候補の育成を開始しました。次世代のセラピードッグも増えてきておりますので、育成にも力を入れて訪問件数の増加にも繋げてまいります。

合わせて、平成 28 年度で 3 年目となる非常勤講師を慈恵学園の大阪 ECO 動物海洋専門学校で務めさせていただき、セラピードッグ事業に従事する後進の育成にも力を注いでいます。

これからも災害救助犬やセラピードッグの育成・派遣に努め、同時に動物福祉の啓蒙活動をますます充実させていくべく活動に努力してまいります。